

新・放課後等の遊び場づくりモデル事業検討・提案会議（第1回会議）議事録

1. 開催日時 平成20年12月18日（木） 10:00~12:00
2. 開催場所 福岡市役所本庁舎 15階 1505会議室
3. 出席者 出席委員 14名
横山委員、大谷委員、鈴木委員、古賀委員、山下委員、戸部田委員、榎田委員、
山部委員、宗委員、川村委員、小野委員、山浦委員
守田委員、在津委員
欠席委員 1名
仲里委員
出席幹事 3名
淵上幹事、西嶋幹事、久地井幹事（代理出席）
4. 議題 新・放課後等の遊び場づくりモデル事業について
(1) 懇話会提言について
(2) 新モデル事業の概要について
(3) 各実施校における実施状況について
(4) 今後の進め方について
(5) 意見交換
5. 議事概要 別紙のとおり
6. 会議資料
新・放課後等の遊び場づくりモデル事業検討・提案会議（仮称）第1回会議次第
資料1 「新・放課後等の遊び場づくりモデル事業検討・提案会議（仮称）」委員名簿（案）
資料2 「新・放課後等の遊び場づくりモデル事業検討・提案会議（仮称）」設置要綱（案）
資料3 「新・放課後等の遊び場づくりモデル事業検討・提案会議（仮称）」傍聴要領（案）
資料4 学校施設を活用した放課後等の居場所づくりについて 提言（概要版）
資料5 新・放課後等の遊び場づくりモデル事業について
資料6-1 「新・放課後等の遊び場づくりモデル事業」各校実施状況について
資料6-2 「放課後等の遊び場づくり事業」各校データ
資料7-1 「新・放課後等の遊び場づくりモデル事業」の検討の進め方（案）
資料7-2 新・放課後等の遊び場づくりモデル事業 検討スケジュール（案）
参考資料 学校施設を活用した放課後等の居場所づくりについて 提言

□局長挨拶

□委員紹介

□検討・提案会議の設置について（事務局から資料により説明）

- (1) 設置要綱について
 - (2) 傍聴要領について
 - (3) 委員長・副委員長の決定
 - ・委員長は、事務局の推薦で横山委員
 - ・副委員長は、委員長の指名で大谷委員
- ※委員長挨拶、副委員長挨拶

□新・放課後等の遊び場づくりモデル事業（以下「新モデル事業」）について

- (1) 懇話会提言について（事務局から資料により説明）
- (2) 新モデル事業の概要について（事務局から資料により説明）

○委員

- ・子ども達が、自分たちで何かを見つけてきて遊ぶことが大切だが、各種教室、イベントの開催の必要性は何か。どのようなイメージのものなのか。

■事務局

- ・平成15年度から放課後の遊び場づくり事業に取り組んでおり、放課後の校庭を使った子どもの自由遊び、外遊びを見守るという形で実施してきた。しかし、現在市内10校での実施にとどまっており、実施メニューについて内容を見直す必要があると考えている。また、平成19年度から国においても放課後子どもプラン推進事業を実施しており、放課後の教室等を活用して囲碁・将棋など様々なメニューを地域と連携しながら実施することとしている。
- ・その趣旨を踏まえながら、新モデル事業においては、自由遊び・外遊びも継続し、各種教室・イベントなど様々なことを試行して、その効果を検証した上で、将来的な事業内容を定めていきたいと考えている。

○委員

- ・登録制となっているが、本当に来てほしい子どもたちに対する働きかけをどう考えていくのか。家庭に引きこもっている子ども達などの実態を分析したうえで、アウトリーチを新事業の中で展開できればいいのではないか。そのためには学校のカリキュラムとのリンクができれば広がりができるのではないか。
- ・ボランティアの活用について、スクールサポーター等のボランティアスタッフとのリンクは可能なか。別のシステムとリンクして展開できればよいと思う。

■事務局

- ・登録制、アウトリーチについては、検討項目として本会議の中で検討していきたい。
- ・ボランティアの活用については、学生サポーター制度との連携を教育委員会と協議、調整している。現在、庁内に連絡会を作って連携して進めており、今後も検討していきたい。

(3) 各校の実施状況について（事務局から資料により説明）

○委員長

- ・児童数と比べて登録数はあまり多いとは思えない。

○委員

- ・常駐しているスタッフがいるのか。また、スタッフは、どのように子どもと関わっているのか。

○委員

- ・現在4名の現場責任者が交代で従事している。自分は当番でない日もできるだけ行くようにしており、1人で遊んでいて、集団に入れない子どもを中心に関わるようにしている。

○委員

- ・現在2名の現場責任者が交代で従事している。スタッフは、参加児童の保護者で構成している。
- ・プレイリーダーが遊びの指導を行う時は、自由遊びは中止して、見守りサポーターも入ってみんなと一緒に遊ぶようにしている。
- ・参加する子どもは、低学年がほとんどで、高学年は授業が終了するのが遅く、ほとんど参加する時間はない。

○委員

- ・3校が新モデル事業に移行していないが、コーディネーターやリーダーなどの人材という視点から、その課題は何か。嘱託員を派遣すれば移行可能だったのか。推進センターでの人材育成との関係はどう考えているのか。
- ・ボランティアリーダー養成講座などを受講し、活発に活動している人がいる。そういう人たちの研修の場として、この事業のプログラムの中に設定したり、そのような人を派遣するシステムなどについて考えていないのか。

■事務局

- ・本年度は、従来事業を実施している10校のうち7校をモデル事業に移行することを目標として10校全部に、嘱託員を派遣することを前提に働きかけた。その中で、運営体制の整備、ボランティアの負担などが理由で、3校は移行できなかった。
- ・推進センターについては、昨年11月に懇話会から提言をいただき、まだ構想の段階であり、中核となるような組織についての必要性は本会議の検討テーマの一つと考えている。
- ・人材の育成については、現場責任者を対象とした研修会を実施しているが、中核となる人材の養成も課題である。
- ・現在、市民局とは、研修プログラムとしての連携は行っていないが、今後検討していきたい。

(4) 今後の進め方

○委員

- ・保護者へのPRが重要だと考えるが、保護者へPRしたり、接する機会が少ない。早急にPRについて検討すべき。

○委員

- ・子どもの参加が少ないように思われるが、参加率を上げることに重点をおくのか、それとも安全、安心な居場所づくりに重点を置くのか。また、各種教室、イベントの実施の仕方など検討項目をもっと絞って会議を進めた方が良いのではないか。

○委員長

- ・限られた回数で効果的に議論するために、本質を押さえて本会議を進めていく必要がある。今後の会議での検討テーマについては、事務局と協議しながら提案していく必要がある。

○委員

- ・長期休業中の実施については、昼間校庭開放との関係をどのように考えているのか。

■事務局

- ・昼間校庭開放との関係も今後検討していきたい。
- ・まず、平日の実施について考えており、長期休業中の実施については、今後の検討課題であり、平日に参加できない子どものことも考えて検討していきたい。

○委員

- ・校庭開放の内容を見直す良い機会である。
- ・ものがなくても集団遊びができる子どもの育成を考えていく必要がある。

○委員長

- ・子ども達が自分達で遊びが自立できる状態をつくるのが最大の課題である。

- ・事業を推進していく上で、何らかの効果の測定を行う必要があるため、事務局で検討中であり、本会議で効果の測定について今後検討していく必要がある。

□意見交換等

○委員長

- ・それぞれ1分ずつお考えをうかがいたい。

○委員

- ・効果の測定については、事業の理念とリンクする必要がある。事業の本質が何なのかを考えて検討を進めてほしい。
- ・福岡市の子ども独自の課題があるのか。また、遊びそのものに対する子ども達の考え方、異年齢交流などの調査項目を会議の中で検討していく必要がある。

○委員

- ・子ども達の日常生活の中でいかに遊ぶ時間を生かしていけるか考えることが大切。
- ・本来遊びは管理されるものではなく、大人に指示、指導されるものではないということを前提に遊び場を確保していく必要がある。子ども達の遊ぶ力を養っていくことが大切。
- ・子ども達の遊び心が衰退したため、子どもが自由に遊ぶことができる機会を与えることが大切だと思う。

○委員

- ・子どもが主体的に遊ぶことを前提にどのようにして大人が関わるかを考えていきたい。
- ・子どもが集まってくるのはおもしろい大人のところ。そのような人材をきっかけとして遊びを広げていく方法もあるのではないか。

○委員

- ・子どもではなく、保護者の意識改革が必要と考えている。
- ・現場を支える地域団体等の理解を深めていく必要がある。

○委員

- ・長続きし、実効性のある事業にするには学校という場が大切となる。学校との関係を考える必要がある。

○委員

- ・放課後の遊び場として事業を拡充する必要がある。
- ・関係者で連携を取り、話し合うことで課題を解決することができると思う。連携を取りながら子ども達が安全で安心して遊べる場を作っていきたい。

○委員

- ・一人でも多くの子ども達が楽しく遊べるように考えていきたい。

○委員

- ・保護者が任せっぱなしになるのが心配。
- ・子ども達が楽しくないと集まらない。子ども達がどう遊びたいかをサポートすることが大切。

○委員

- ・来年度から新学習指導要領の先行実施により授業数が増え、活動時間や活動場所に制約がでてくる。
- ・留守家庭子ども会との連携、調整を図っていく必要がある。

○委員

- ・事業を実施している中で、保護者（見守りサポーター）間のコミュニケーションが増えている。
- ・現場の意見を取り入れながら検討できればと思う。

○委員

- ・子どもの人間形成においては、遊びを通じて多くの人と関わり合いを持つことが大きく影響する。そのため遊び場を作ることはたいへん重要なことだと思う。

○委員

- ・居場所づくりとは、遊び場づくりであり、遊べる子どもづくりだと思う。現在、遊べない子ども

が多い。魅力があるか否かは別で、場所があれば遊べる子どもの育成を前提に考えながら、われわれができることを考えていくことが大切。そういう意味で安全で安心して遊べる場所づくりを考えていかなければならない。

○副委員長

- ・遊びについて議論しなければならない状況にあり、意識的に遊びを作り出すこと、遊べる子どもを育成することが必要であるという課題意識をあらゆる大人が共有することが大切。
- ・子どもが置かれた状況、遊びの大切さ、子どもの育ちにとっての遊びの意味の深さを大人が共有し、その魅力を子ども自身が感じることができる場を作り出すために努力が必要だと思う。

○委員長

- ・最終的に子ども達のためのすばらしい内容のある報告ができたらと思う。